

# 小体研

Physical education

2020年(令和2年)

2月14日(金)

◇ 第12号 ◇

八重山地区小学校体育研究会広報誌

## 宜野座小学校 体育指定研究発表会に参加して

宮良小学校 嘉手納 倫

今回、体育指定研究発表会(最終年次)に参加してきました。当日は、海風の吹く寒空の下、運動場で元気いっぱい活動する子ども達の姿が印象的でした。「スプラッシュボール」というハンドボールを簡易化されたゴール型ゲームを参観し、授業の流れや感じたことを紹介したいと思います。

### 研究テーマ

### 運動の楽しさを味わい、自ら考えて学び合う児童の育成

～動く・わかる・のびる・かかわるを実感する授業づくり～

### ゴール型「スプラッシュボール」 対象:3年生 授業者:伊禮 申 先生

#### ○授業の流れ【宜野座スタイル】

- 1 集団行動・準備体操(授業前)
- 2 めあての確認
- 3 慣れの運動
  - ① 場所トリトリ
  - ② アタックゲーム
  - ③ パスパスゲーム
- 4 メインゲーム
  - ① 5分×2
  - ② チームで話し合い(2分)
  - ③ 5分×2
- 5 全体でのふり返り

#### 【授業を参観して】

授業前からみんなの心を一つにと集団行動(歩く→小走り)から準備体操が始まり、授業がテンポよく流れていったのが印象的でした。「スプラッシュボール」は、宜野座小の渡久地政信先生が開発した教材で、場の設定やルールが簡易なので、どの子もよく活動しており、中心のコーンに向かって一生懸命にボールを投げていました。渡久地先生から、「中学年のスプラッシュボールを、さらに発展させたスプラッシュボール2は、高学年用に開発し、攻守の展開がスピーディーで、よりハンドボールの特性に近づいた教材となっております。」とあり、**単元の系統性を意識した授業づくり**をしているとのことでした。

また、支援を要する児童に対しては、支援員が側につき、できる範囲でチームの一員として笑顔で楽しく活動しており、**共生の視点**からも素晴らしいと感じました。

#### ボール操作に特化した技能向上ダンス



体と心の準備

#### 場所トリトリ



ボールを持たない時の動き

#### アタックゲーム



かに→ボルト→足→投げるのかけ声で

みんなで曲に合わせてリズムよくダンス(準備体操)をしていました。場所トリトリでは、空いている場所に素早く移動し、空間を意識しながら動いていました。アタックゲームでは、投げる動作を口で唱えながら投げ、コーンに当たったときはチームでハイタッチ! 子ども達の元気な声が響いていました。

## メインゲーム



ボールを隠したり、逆のサイドにパスをしたり、ドリブルからシュートなど色々な動きが見られました。

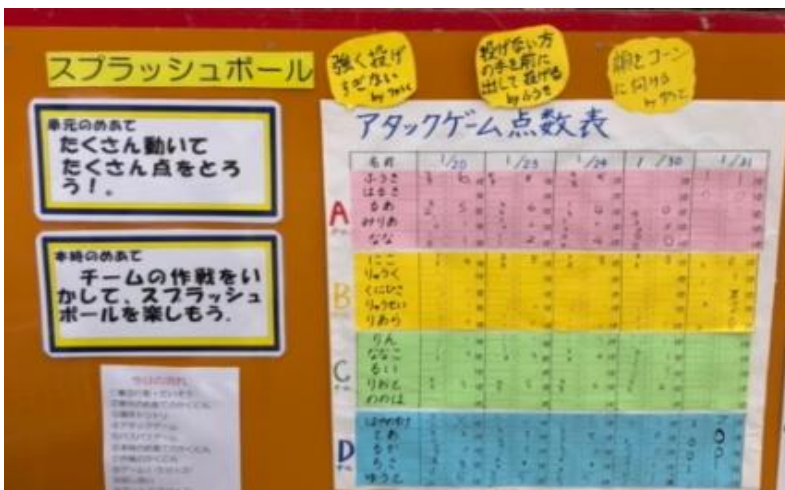


鈴

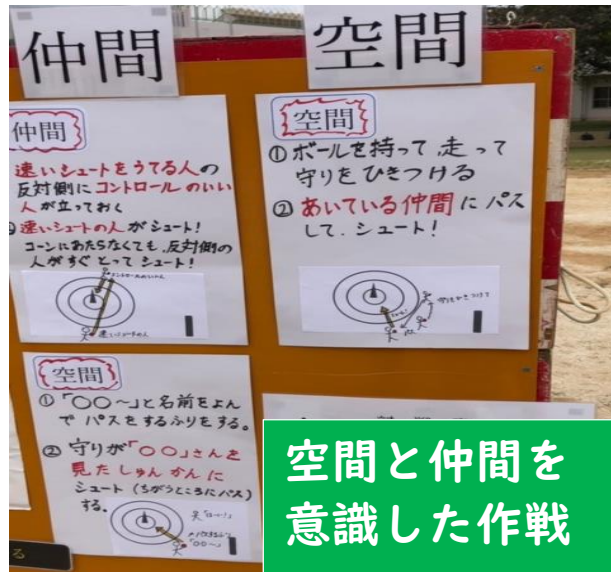
当たったらいい音が鳴ります



作戦ボードで視覚的に動き方を確認

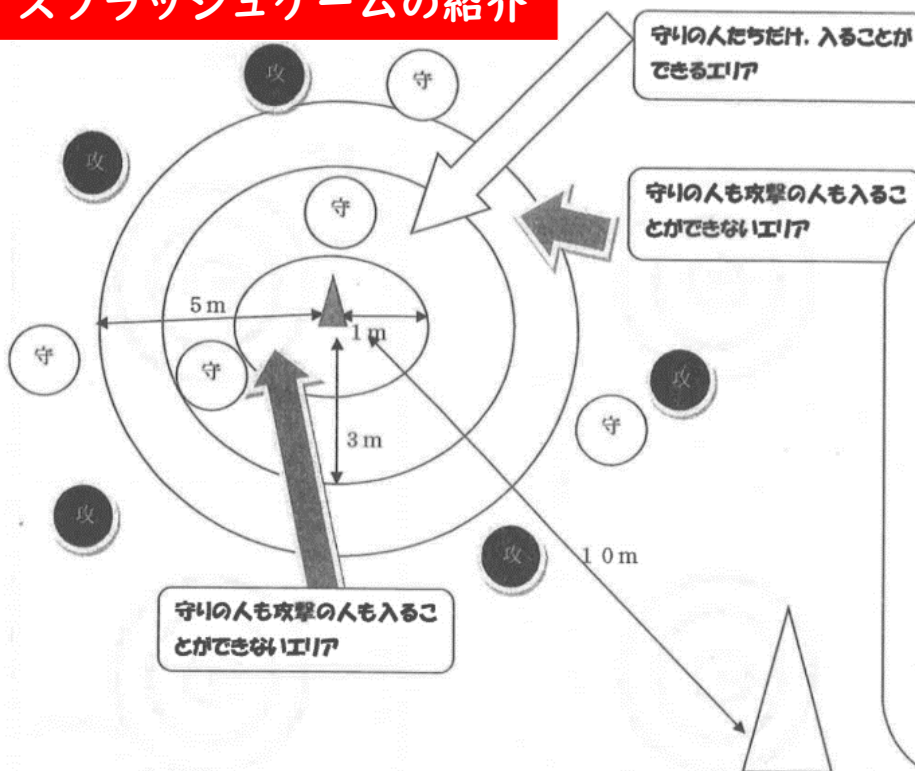


めあての掲示、点数表で意欲づけ



空間と仲間を意識した作戦

## スプラッシュゲームの紹介



### ルール説明

- 1チーム4～7人 1試合 前半・後半5分 守りの時 2人が内側の守りで残りが外側の守り
- ボールを2～3つ使用する。実態によって増減
- 中央的に当たたら1点 得点したら、すべてのボールを外の攻撃側に渡してスタート
- 守りがボールをとった時は、タッチ板に向けてボールを投げるかこがす。
- 攻撃も守りも入っていけないエリアに入ると、ペナルティーとして、タッチ板まで走る。
- ドリブルやパスの回数などは、学級の実態に合わせる。
- 相手を押ししたり、つかまえたりしたら、ペナルティーとして、タッチ板まで走る

低学年の的当てを発展させたもの。ルールが簡易で子ども達が活発に動いていました。気になった点として、  
 ①ボール2つに対し、コーン近くの守りも2人なので、ボール保持者と向かい合う場面が多く、得点が決めにくい。  
 ②守りがボールを捕った時、コート外にボールを投げるので、活発な動きが止まり間延びした感じになる。  
 ③技能面での差が大きく、触球回数の少ない子への手立てが必要、と感じました。